

令和7年度 シラバス

教科	社 会	科目	学年・類型	1 年 必修	単位数(週時数)	3
教科書	「新しい社会 地理（東京書籍）」，「中学校社会科地図（帝国書院）」 「新しい社会 歴史（東京書籍）」					
副教材等	・よくわかる社会の学習 地理1（明治図書） ・よくわかる社会の学習 歴史1（明治図書）					

学習の目標	地理分野と歴史分野を並行して学習します。 ＜地理的分野＞ 世界の地域の特徴を学習して，地理的な見方や考え方の基礎を身に付けます。また，各地域の特徴を比べたり関連付けたりしながら共通性や法則を見つけるとともに，様々な資料をうまく活用していく力を育てます。 ＜歴史的分野＞ 日本の歴史の大きな流れと各時代の特徴を学習して，歴史上の人物や日本の文化に対する関心を高めます。また，日本と諸外国の関わりを理解することで国際協調の精神を養います。さらに，様々な資料を活用して，公正に判断し，表現する能力を育てます。
学習の方法	地理分野・歴史分野ともに，事前に教科書を読み，授業プリントに記入するなど，必ず予習をしてから授業に臨んでください。そして，週末などを利用して復習も欠かさずにやってください。 地理学習においては，基本的事項を踏まえ，地図などの資料を見て，情報を主体的に活用することが大切です。 歴史学習においては，基本的事項を理解するとともに，歴史の流れと時代の特徴をつかむ必要があります。
評価の規準	1 社会的事象についての知識・技能 世界の諸地域について，地域構成や地域的特色，地域の課題などを理解するとともに，調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 日本の中世までの大きな流れを，世界の歴史を背景に，各時代の特徴を踏まえて理解しているとともに，調査や諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 2 社会的な思考・判断・表現 地理的事象の意味や意義，特色や相互の関連を，地域的特色や環境条件，人々の営みなどに着目して，多面的・多角的に考察したり，地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したり，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりしている。 中世までの歴史的事象の意味や意義，伝統や文化の特色などを，相互の関連や現代のつながりなどに着目して，多面的・多角的に考察したり，歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりしている。 3 社会的事象について主体的に学習に取り組む態度 日本や世界の地域に関わる諸事象及び中世までの歴史的事象について，国家及び社会の担い手として，よりより社会の実現を視野に諸課題を主体的に追究，解決しようとしている。
評価の方法	[各学期の評価] 上記の点を踏まえ，定期考査・課題テスト・小テストの成績の他，課題の提出，主体的な授業への取組などで，総合的に判断して評価を行います。 [年間の学習状況の評価] 上記の点を踏まえ，各学期の成績を総合的に判断した上で評価して，年間の学習成績とします。

	単元	主な学習内容
1 学期	＜地理的分野＞ 第1編 世界と日本の姿 第1章 世界の姿 第2章 日本の姿 第2編 世界の様々な地域 第1章 世界各地の人々の生活と環境	＜地理的分野＞ 地図や地球儀を用いて，大陸・海洋，緯度・経度，国名と位置などを学習した上で，日本の位置，領域，標準時と時差，都道府県と地域区分を学習します。 世界各地の気候，生活習慣，宗教などを学習します。
2 学期	＜歴史的分野＞ 第1章 歴史へのとびら 第2章 古代までの日本 第3章 中世の日本	＜歴史的分野＞ 時期や年代の表し方，歴史の流れのとらえ方などを学習します。 人類の誕生，世界の文明，旧石器時代～平安時代の特徴と歴史の流れを学習した上で，武士の成長から～戦国時代における各時代の特徴と，歴史の流れを学習します。
3 学期	＜地理的分野＞ 第2編 世界の様々な地域 第2章 世界の諸地域	＜地理的分野＞ 世界各州の地理的環境，産業などの特色を学習します。

令和7年度 シラバス

教科	社 会	科目	学年・類型	2 年 必修	単位数(週時数)	3
教科書	新編 新しい社会 地理 (東京書籍)	中学校社会科地図 初訂版 (帝国書院)				
	新編 新しい社会 歴史 (東京書籍)					
副教材等	よくわかる社会の学習 地理 2 (明治図書), よくわかる社会の学習 歴史 2・3 (明治図書)					

学習の目標	地理分野と歴史分野を並行して学習します。 <地理的分野> 世界の地域の特色を学習して、地理的な見方や考え方の基礎を身に付けます。また、各地域の特徴を比べたり関連付けたりしながら共通性や法則を見つけるとともに、様々な資料をうまく活用していく力を育てます。 <歴史的分野> 日本の歴史の大きな流れと各時代の特色を学習して、歴史上の人物や日本の文化に対する関心を高めます。また、日本と諸外国の関わりを理解することで国際協調の精神を養います。さらに、様々な資料を活用して、公正に判断し、表現する能力を育てます。
学習の方法	地理分野・歴史分野ともに、事前に教科書を読み、授業プリントに記入するなど、必ず予習をしてから授業に臨んでください。そして、週末などを利用して復習も欠かさずにやってください。 地理学習においては、基本的事項を踏まえ、地図などの資料を見て、情報を主体的に活用することが大切です。歴史学習においては、基本的事項を理解するとともに、時代の流れと特色をつかむことが必要です。
評価の規準	1 社会的事象についての知識・技能 近世までの大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解しているとともに、調査や諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 日本の諸地域について、地域構成や地域の特色、地域の課題などを理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 2 社会的な思考・判断・表現 近世までの歴史的事象の意味や意義、伝統や文化の特色などを、相互の関連や現代のつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、地域的特色や環境条件、人々の営みなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 3 社会的事象について主体的に学習に取り組む態度 日本や世界の地域に関わる諸事象及び近世までの歴史的事象について、国家及び社会の担い手として、よりより社会の実現を視野に諸課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価の方法	[各学期の評価] 上記の点を踏まえ、定期考査・課題テスト・小テストの成績の他、課題の提出、主体的な授業への取組などで、総合的に判断して評価を行います。 [年間の学習状況の評価] 上記の点を踏まえ、各学期の成績を総合的に判断した上で評価して、年間の学習成績とします。

	単元	主な学習内容
1 学期	<歴史的分野> 第3章 中世の日本 <地理的分野> 第3編(2)-1 日本の地域的特色と地域区分	<歴史的分野> 平安時代末～室町時代後期の特色と歴史の流れを学習します。 <地理的分野> 日本の地形・気候など自然環境の特色を学習します。
2 学期	<歴史的分野> 第4章 近世の日本 <地理的分野> 第3編(2)-2 日本の地域的特色と地域区分	<歴史的分野> 戦国時代～江戸時代の特色と歴史の流れを学習します。 <地理的分野> 日本の産業・社会面の特色、地域区分などを学習します。
3 学期	<地理的分野> 第3編(3) 日本の諸地域	<地理的分野> 日本の諸地域について、地域の特色を学習します。地域的特色を明らかにする視点や方法を身に付けます。

令和7年度 シラバス

教科	社 会	科目	学年・類型	3年 必修	単位数(週時数)	4
教科書	新編 新しい社会 地理(東京書籍) 中学校社会科地図 初訂版(帝国書院) 新しい社会 歴史(東京書籍) 中学校社会 公民的分野(日本文教出版)					
副教材等	よくわかる社会の学習 地理2(明治図書) よくわかる社会の学習 歴史2・3(明治図書) 新しい公民(浜島書店) 中学一問一答問題集社会(受験研究社)					

学習の目標	日本の各地域の特色を学習して、地理的な見方や考え方の基礎を身に付けます。また、各地域の特徴を比べたり関連付けたりしながら共通性や法則を見つけるとともに、様々な資料をうまく活用していく力を育てます。近現代(江戸幕末～平成)の学習を通して、現在の社会の成立過程を学びます。また、現代社会を構成する価値観(政治・経済)や「現代に生きる私たちの課題」を学ぶことを通して、現在の社会についての理解を深めます。これからの国際・日本社会を支える「公民」としての資質を向上させることが目標です。
学習の方法	日々の学習に関しては、予習・復習を欠かさないこと。特に、アチーブメントテストに備え、各分野を計画的に復習することが大切です。また、時事問題に対する関心を高めるためにも、進んで毎日、新聞を読みましょう。資料集等が自学の際の理解を助けます。
評価の規準	1 社会的事象についての知識・技能 我が国の歴史・文化及び世界の様子について、知識を身に付けるとともに、現代社会についての見方や考え方、現代の社会生活及び政治や経済の基本的な考え方、社会的事象の意義や役割について理解し、地域とのつながりについて調べまとめている。 2 社会的な思考・判断・表現 現代の歴史的事項や社会的事象から課題を見出し、社会的事象の意義や役割、相互の関連などを多面的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 3 社会的事象について主体的に学習に取り組む態度 現代の歴史的・社会的事象に対する関心を高め、意欲的に追究し、広い視野に立ってよりよい社会を考え、国家及び社会の担い手として主体的に問題の解決に取り組もうとする。
評価の方法	[各学期の評価] 上記の点を踏まえ、定期考査・課題テスト・小テストの成績の他、課題の提出、主体的な授業への取組などで、総合的に判断して評価を行います。 [年間の学習状況の評価] 上記の点を踏まえ、各学期の成績を総合的に判断した上で評価して、年間の学習成績とします。

	単元	主な学習内容
1 学 期	<地理分野> 第3章 日本の諸地域 <歴史的分野> 第5章 開国と近代日本の歩み 第6章 二度の世界大戦と日本 第7章 現代の日本と私たち	日本の諸地域について、地域の特色を学習します。地域的特色を明らかにする視点や方法を身に付けます。 幕末の開国、明治新政府による改革などを通して、日本の近代化が進んだことを学びます。また、二度の世界大戦前後の国際情勢と日本の動き、第二次世界大戦後についての日本の姿を学びます。
2 学 期	<公民的分野> 第1章 私たちと現代社会 第2章 私たちの生活と政治 第3章 私たちの生活と政治	社会と個人の関係について学びます。 現代の社会の基本原則を政治(日本国憲法の三大原理・国会、内閣、裁判所等)・経済(市場、金融・財政、企業等)両面から学びます。その際、日常生活の中にある事例から国際的な問題まで考えていきます。
3 学 期	第4章 私たちの生活と経済 第5章 私たちの課題	現代の国際社会が抱える問題について学びます。解決に向けた国家をはじめとする様々な諸団体の取組の内容について具体的に調べます。また、自分が、今そして将来果たすべきことについても考えます。

令和7年度 シラバス

教科	地理歴史	科目	地理総合	学年・類型	4年 必修	単位数(週時数)	2
教科書	高等学校 新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）						
副教材等	新編 地理資料 2025（とうほう） 令和7年度版 地理総合・探究ワークブック（愛媛県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会地理部門）						

学習の目標	現代世界の系統地理的考察と地誌的考察をします。地図やGISなども用いながら地理的ものの見方、地理的なものの考え方を身に付けます。そのことで、国際社会の中で、主体的に生きる資質を養うことを目標としています。
学習の方法	授業が基本です。集中して取り組みましょう。そのためには予習・復習の「凡事徹底」が前提となります。「なぜ(What)」,「どうして(Why)」こうなるのかを考えながら取り組みましょう。基本的な知識・内容を理解し、身に付けるとともに、地図やGISが有効に活用できるようにしましょう。 また、白地図を積極的に活用し、地図で理解していくことにも努めましょう。資料集や地理ワークブックの活用により理解を深めていきましょう。
評価の規準	1 知識・技能 現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。また、地図やGISなどにより地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 2 思考・判断・表現 現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 3 主体的に学習に取り組む態度 現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。
評価の方法	[各学期の評価] 上記の観点を踏まえ、定期考査と課題の提出状況や授業に取り組む姿勢（課題テスト、小テスト、発表など）を加味して総合的に判断して評価を行います。 [年間の評価] 上記の観点を踏まえ、各学期の評価を総合的に判断して、年間の成績の評価を行います。

	単元	主な学習内容
1学期	1 地図と地理情報システム 2 結び付きを深める現代世界 3 世界の地形と人々の生活 4 世界の気候と人々の生活 5 世界の言語・宗教と人々の生活	さまざまな地図の種類やその利用、時差の求め方や地理情報の地図化について学習します。 世界の地形と気候、言語・宗教の文化的要素に関する諸事象を取り上げて、それらの分布や人間生活との関わりなどについて学習します。
2学期	6 歴史的背景と人々の生活 7 地球的課題と国際協力 (1) 地球環境問題 (2) 資源・エネルギー問題 (3) 人口・食料問題 (4) 都市・居住問題	地球的規模で起こっている世界の環境問題の要因や特徴・対策について学習します。 世界の農林水産業の地域的な特徴、現状と課題について、日本の農林水産業の現状や食糧問題を結びつけながら学びます。
3学期	8 日本の自然環境 9 自然環境と防災 10 自然災害への備え 11 地域調査	資源・エネルギーに関する諸事象を取り上げ、それらの動向や課題について学習します。 工業の発達や立地について、世界の工業地域の特徴と関連させながら学びます。

令和7年度 シラバス

教科	地理歴史	科目	歴史総合	学年・類型	4年 必修	単位数(週時数)	2
教科書	詳述歴史総合（実教出版）						
副教材等	詳述歴史総合 マイノート（実教出版）						

学習の目標	主に近現代史学習を中心に学習することで、世界の構造や成り立ちを歴史的な視野から考察する力と、人類の課題を多角的に考察し、他国や他の地域と協調していく態度を身に付ける。
学習の方法	現在の国境紛争・宗教対立・経済格差などの諸問題をニュースや、資料で確認した上で授業に臨みます。また、世界史と日本史や地理、政治・経済とを関連付けて学んでいくため、様々な知識を歴史総合の授業で解釈していく姿勢が大切です。
評価の規準	1 関心・意欲・態度 近現代史を中心とする日本と世界の歴史に関心を持ち、国際社会の課題を主体的に解決していこうとする。 2 思考・判断・表現 近現代史を中心とする世界と日本の歴史を多面的な考察を通して公正に判断し、考察した過程や結果を適切に表現する。 3 知識・理解 世界の歴史についての基本事項を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	〔各学期の評価〕 上記の点を踏まえ、定期考査・小テストの成績の他、課題の提出、主体的な授業への取組などで、総合的に判断して評価を行います。 〔年間の学習状況の評価〕 上記の点を踏まえ、各学期の成績を総合的に判断した上で評価して、年間の学習成績とします。

	単元	主な学習内容
1学期	第1編 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動 第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成 第3章 アジアの変容と日本の近代化	16世紀以降の世界商業の進展と産業革命後の資本主義の確立を中心に、世界の一体化の過程を理解します。特に、ヨーロッパの動向と日本などアジア諸国の対応に着目します。
2学期	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第4章 帝国主義の時代 第5章 第一次世界大戦と大衆社会 第6章 経済危機と第二次世界大戦	20世紀に入り「大衆化」という動きが強くみられる時期は、人々の台頭が著しく、「総力戦」の名のもとに、第一次世界大戦、第二次世界大戦が戦われたことに着目します。
3学期	第3編 グローバル化と私たち 第7章 冷戦と脱植民地化 第8章 多極化する世界 第9章 グローバル化と現代世界	地球規模で一体化した現代世界の特質と展開過程を理解し、人類の課題について考察します。特に、世界の動向と日本との関わりに着目します。

令和7年度 シラバス

教科	地理歴史	科目	地理探究	学年・類型	5年・人文（選択）	単位数(週時数)	2
教科書	新詳地理探究（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）						
副教材等	新編地理資料 2024（とうほう） 地理総合・探究ワークブック-2024-（愛媛県高等学校教育研究会 地理歴史・公民部会 地理部門）						

学習の目標	現代世界の系統地理的考察と地誌的考察をします。地図帳や統計資料なども用いながら地理的思考力、地理的なものの見方を身に付けます。そのことで、国際社会の中で、主体的に生きる資質を養うことを目標としています。
学習の方法	授業が基本です。集中して取り組みましょう。そのためには予習・復習の「凡事徹底」が前提となります。「なぜ（What）」、「どうして（Why）」こうなるのかを考えながら取り組みましょう。基本的な知識・内容を理解し、身に付けるとともに、地図帳や統計資料の活用ができるようにしましょう。 また、白地図を積極的に活用し、地図で理解していくことに努めましょう。地理図表や地理ワークブックの活用により理解を深めていきましょう。
評価の規準	1 知識・技能 現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的な活用方法を身に付けている。 2 思考・判断・表現 現代世界の地理的事象から課題を見いだし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現したり、深めることができています。 3 主体的に学習に取り組む態度 現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。
評価の方法	[各学期の評価] 上記の点を踏まえ、定期考査と課題の提出状況、授業に取り組む姿勢（課題テスト、小テスト、主体的な授業への取組など）を加味して、総合的に判断して評価を行います。 [年間の学習状況の評価] 上記の点を踏まえ、各学期の成績を総合的に判断した上で評価して、年間の学習成績とします。

	単元	主な学習内容
1 学期	第1章 自然環境 1 地形 2 気候 3 日本の自然環境 4 地球環境問題	世界及び日本の地形と気候などの自然環境に関する諸事象を取り上げて、それらの分布や人間生活との関わりなどについて学習します。 地球的規模で起こっている環境問題の要因について考察し、その特徴と人間生活に与える影響とその対策について学習します。
2 学期	第2章 資源と産業 5 農林水産業 6 食料問題 7 エネルギー・鉱産資源 8 工業 9 第3次産業	世界の農林水産業の地域的な特徴、現状と課題について、日本の農林水産業の現状や食糧問題を結びつけながら学びます。 資源・エネルギーに関する諸事象を取り上げ、それらの動向や課題について学習します。 工業の発達や立地、第3次産業の発達に伴う消費生活の変化の特徴をとらえ、現代社会のあり方を学習します。
3 学期	第3章 交通・通信と観光、貿易 10 交通・通信 11 観光 12 貿易と経済圏	世界の交通・通信の発達による時間距離の短縮、情報化社会の特徴について学習します。また、観光のあり方について学習します。 世界貿易の特徴をとらえ、世界の各国及び諸地域の結びつきを学習します。

令和7年度 シラバス

教科	地理歴史	科目	地理探究	学年・類型	5年・理数	単位数(週時数)	2
教科書	新詳地理探究（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）						
副教材等	新詳地理資料 COMPLETE 2025（帝国書院） 地理総合・探究ワークブック2025（愛媛県高等学校教育研究会 地理歴史・公民部会地理部門）						

学習の目標	現代世界の系統地理的考察と地誌的考察をします。地図帳や統計資料なども用いながら地理的思考力、地理的なものの見方を身に付けます。そのことで、国際社会の中で、主体的に生きる資質を養うことを目標としています。
学習の方法	授業が基本です。集中して取り組みましょう。そのためには予習・復習の「凡事徹底」が前提となります。「なぜ（What）」、「どうして（Why）」こうなるのかを考えながら取り組みましょう。基本的な知識・内容を理解し、身に付けるとともに、地図帳や統計資料の活用ができるようにしましょう。 また、白地図を積極的に活用し、地図で理解していくことに努めましょう。地理図表や地理ワークブックの活用により理解を深めていきましょう。
評価の規準	1 知識・技能 現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的な活用方法を身に付けている。 2 思考・判断・表現 現代世界の地理的事象から課題を見いだし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現したり、深化している。 3 主体的に学習に取り組む態度 現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。
評価の方法	[各学期の評価] 上記の点を踏まえ、定期考査と課題の提出状況、授業に取り組む姿勢（課題テスト、小テスト、主体的な授業への取組など）を加味して、総合的に判断して評価を行います。 [年間の学習状況の評価] 上記の点を踏まえ、各学期の成績を総合的に判断した上で評価して、年間の学習成績とします。

	単元	主な学習内容
1学期	第1章 自然環境 1 地形 2 気候 3 日本の自然環境 4 地球環境問題	世界及び日本の地形と気候などの自然環境に関する諸事象を取り上げて、それらの分布や人間生活との関わりなどについて学習します。 地球的規模で起こっている環境問題の要因について考察し、その特徴と人間生活に与える影響とその対策について学習します。
2学期	第2章 資源と産業 5 農林水産業 6 食料問題 7 エネルギー・鉱産資源 8 工業 9 第3次産業	世界の農林水産業の地域的な特徴、現状と課題について、日本の農林水産業の現状や食糧問題を結びつけながら学びます。 資源・エネルギーに関する諸事象を取り上げ、それらの動向や課題について学習します。 工業の発達や立地、第3次産業の発達に伴う消費生活の変化の特徴をとらえ、現代社会のあり方を学習します。
3学期	第3章 交通・通信と観光、貿易 10 交通・通信 11 観光 12 貿易と経済圏	世界の交通・通信の発達による時間距離の短縮、情報化社会の特徴について学習します。また、観光のあり方について学習します。 世界貿易の特徴をとらえ、世界の各国及び諸地域の結びつきを学習します。

令和7年度 シラバス

教科	地理歴史	科目	日本史探究	学年・類型	5年・人文 選択	単位数(週時数)	2
教科書	日本史探究 詳説 日本史 (山川出版社)						
副教材等	「図説日本史通覧」(帝国書院)						

学習の目標	私たちの国の歴史がどのように展開してきたのかを、地理的な条件や世界の歴史との関連の中で考えます。そして、私たちの国の伝統と文化の特色についてしっかりと理解するとともに、「どういう原因(背景)」があったために「何が起こり」、そのため「結果としてどうなったか。」を、自分自身で考え、他者に伝えることができる力を身に付けます。このような力を生かし、国際社会において主体的に生きる資質を養うことを目標としています。
学習の方法	5年生では、原始・古代から近世初めまでの事項を学習していきます。 まずは基本的な用語を確実に理解しましょう。授業中に必ず説明があります。その用語が教科書のどこに書かれているかを確認しましょう。その時、前後の文章を合わせて読みましょう。一つの単元が終わったら、通して教科書を読みましょう。歴史的な文脈の中に個々の事象を位置付けることができるようになります。
評価の規準	1 知識・技能 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解し、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 2 思考・判断・表現 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察している。 3 主体的に学習に取り組む態度 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。
評価の方法	[各学期の評価] 上記の点を踏まえ、定期考査・課題テスト・小テストの成績の他、課題の提出、主体的な授業への取組などで、総合的に判断して評価を行います。 [年間の学習状況の評価] 上記の点を踏まえ、各学期の成績を総合的に判断した上で評価して、年間の学習成績とします。

	単元	主な学習内容
1学期	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権 第3章 律令国家の形成	原始社会の特色及び古代国家と社会や文化の成立について学習します。それぞれの時代において、東アジア世界との交流が、我が国の国家や文化の形成に大きな影響を及ぼしたことを学びます。
2学期	第4章 貴族政治の展開 第5章 院政と武士の躍進 第6章 武家政権の成立	古代国家の推移と中世社会の成立について学びます。唐・宋・元をはじめとする東アジア諸地域との関係をふまえながら、荘園・公領の動きや武家政権成立の動向、文化の特色に着目して、国家の形成過程や社会構造の変化について考察を深めます。
3学期	第7章 武家社会の成長 第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と展開	中世社会の展開から近世国家の形成までを学びます。庶民の台頭や下克上が進んだ中世社会の多様な展開を辿るとともに、近世国家や文化の形成について、ヨーロッパ諸国のアジア進出を含む国際環境にも着目しながら考察します。

令和7年度 シラバス

教科	地理歴史	科目	世界史探究	学年・類型	5年・人文 選択	単位数(週時数)	2
教科書	詳説世界史（山川出版社）						
副教材等	「グローバルワイド最新世界史図表」（第一学習社）						

学習の目標	世界の歴史の大きな枠組みと流れを理解します。各地域や時代の特徴、文化の多様性などを学習することによって歴史的思考力を育て、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を身に付けます。
学習の方法	- 教科書を精読することはもちろんですが、世界史で登場する英雄を取り上げた書籍・映画や、定期的に博物館などが行う企画展など、世界史に触れる機会は意外と多いものです。魅力的な「世界」に触れる機会を積極的に増やしていきましょう。 - カタカナ表記の用語が多いのが特徴です。語源などに着目し、文化的な背景や一定の法則性を見いだすと、整理しやすく記憶にも残りやすくなります。 - 同盟・対立に基づく複雑な国際関係や大規模な民族移動、戦争の結果としての領土の増減は、世界地図の略図上に表現することができると理解を助けます。
評価の規準	- 知識・技能 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 - 思考・判断・表現 地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、概念などを活用して多角的・多面的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や議論したりする力を身に付けている。 - 主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探求しようとする態度を養い、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚を深めている。
評価の方法	[各学期の評価] 上記の点を踏まえ、定期考査・課題テスト・小テストの成績の他、課題の提出、主体的な授業への取組などで、総合的に判断して評価を行います。 [年間の学習状況の評価] 上記の点を踏まえ、各学期の成績を総合的に判断した上で評価して、年間の学習成績とします。

	単元	主な学習内容
1 学期	- 文明の成立と古代文明の特質 - 中央ユーラシアと東アジア世界 - 南アジア世界と東南アジア世界の展開	農耕が始まったオリエントから文明がおこり、地中海に広がる過程を学ぶとともに、繁栄を誇ったローマ帝国の諸制度からヨーロッパ世界の形成についてまでを学びます。
2 学期	- 西アジアと地中海周辺国家形成 - イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 - イスラーム教の伝播と西アジアの動向 - ヨーロッパ世界の変容と展開	西アジアに誕生したイスラーム教は、広範な地域に伝播して現地社会に大きな影響を与えた。地球規模での交易の拡大はアジア諸地域に繁栄をもたらす一方、ヨーロッパ諸国の内部の変革をもたらしたことを学びます。
3 学期	- 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 - 大交易・大交流の時代 - アジアの諸帝国の繁栄	アジアの富と繁栄が世界の人々をひきつけ、世界の海洋ネットワークを形成したことから、産業社会と国民国家の形成、資本主義社会の発展が世界の歴史に与えた影響、諸地域世界の結合と変容について学びます。

令和7年度 シラバス

教科	公民	科目	公共	学年・類型	5年	単位数(週時数)	2
教科書	公共（東京書籍）						
副教材等	フォーラム公共 2025（東京法令出版） 公共ワークブック 2025（愛媛県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会地理部門）						

学習の目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。
学習の方法	授業が基本です。集中して取り組みましょう。そのためには予習・復習の「凡事徹底」が前提となります。また普段から時事ニュースに関心を持ち、社会で起こる様々な出来事について自らの問題として考えていく習慣を身に付けましょう。そしてグループ学習、発表などの学習活動、探究活動を通してものごとを多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を養いましょう。
評価の規準	1 知識・技能 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 2 思考・判断・表現 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。 3 主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
評価の方法	[各学期の評価] 上記の観点を踏まえ、定期考査と課題の提出状況や授業に取り組む姿勢（課題テスト、小テスト、発表など）を加味して総合的に判断して評価を行います。 [年間の評価] 上記の観点を踏まえ、各学期の評価を総合的に判断して、年間の成績の評価を行います。

	単元	主な学習内容
1学期	第1編 「公共」のとびら 第1章 公共的な空間をつくる私たち 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第3章 公共的な空間における基本的原理	社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学びます。また古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解します。
2学期	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 民主政治と政治参加 第2章 法の働きと私たち 第3章 経済生活で生きる私たち	よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解します。また公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られることを理解します。
3学期	第4章 私たちの職業生活 第5章 国際社会のなかで生きる私たち 第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動を行います。

令和7年度 シラバス

教科	地理歴史	科目	地理探究	学年・類型	6年・人文 選択	単位数(週時数)	4
教科書	新詳地理探究 (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)						
副教材等	新詳地理資料 COMPLETE 2023 (帝国書院) データブック・オブ・ザ・ワールド 2025 年版 (二宮書店) 地理探究ワークブック2024 (愛媛県高等学校教育研究会 地理歴史・公民部会 地理部門)						

学習の目標	現代世界の系統地理的考察と地誌的考察をします。地図帳や統計資料なども用いながら地理的思考力、地理的なものの見方を身に付けます。そのことで、国際社会の中で、主体的に生きる資質を養うことを目標としています。
学習の方法	授業が基本となりますので、集中して取り組みましょう。自ら「なぜ (What)」、「どうして (Why)」こうなるのかを常に考えながら取り組みましょう。基本的な内容を身に付けるために地図帳や統計資料の活用をしましょう。 また、白地図を積極的に活用し、地図で理解していくことに努めましょう。資料集、地理ワークブックの活用により理解を深めていきましょう。 問題演習では、理屈で理解できるように努めましょう。
評価の規準	1 知識・技能 現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用する技能を身に付けている。 2 思考・判断・表現 現代世界の地理的事象から課題を見いだし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現したり、議論したりする力を身に付けている。 3 主体的に学習に取り組む態度 現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを主体的に探求しようとする態度を養い、日本国民としての自覚、異なる民族や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚を深めている。
評価の方法	[各学期の評価] 上記の点を踏まえ、定期考査と課題の提出状況、授業に取り組む姿勢(課題テスト、小テスト、主体的な授業への取組など)を加味して、総合的に判断して評価を行います。 [年間の学習状況の評価] 上記の観点を踏まえ、各学期の成績を総合的に判断した上で評価して、年間の学習成績とします。

	単元	主な学習内容
1 学期	第1部 現代世界の系統地理的考察 4章 人口、村落・都市 5章 生活文化、民族・宗教 ○問題演習	都市と村落の成り立ちについて学習し、現代の諸課題とその解決について考察します。 世界の民族問題や領土問題に関する諸事象を取り上げ、歴史的背景も踏まえながら学習します。
2 学期	第2部 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 2章 現代世界の諸地域 3章 現代世界と日本 第3部 現代世界における これからの日本の国土像 ○発展的な学習	現代世界をいくつかの区分する方法や地域概念、地域区分の意義について学習します。 現代世界の諸地域を取り上げ、歴史的背景を踏まえて多面的・多角的に地域の変容や構造について、地誌的に学習します。 大学入試問題や模試の問題を利用して、学習内容を確認し、理解を深めます。
3 学期	○大学入試への対策	進路目標の実現を図るため、大学入学共通テストや国公立大の個別学力試験、松山大学をはじめとする私立大学入試などへの対策を行います。

令和7年度 シラバス

教科	地理歴史	科目	地理探究	学年・類型	6年・理数 選択	単位数(週時数)	3
教科書	新詳地理探究（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）						
副教材等	データブック 2025 年版（二宮書店） 2024 新地理要点ノート（啓隆社） 地理探究ワークブック 2024（愛媛県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会地理部門）						

学習の目標	現代世界の系統地理的考察と地誌的考察をします。地図帳や統計資料なども用いながら地理的思考力、地理的なものの見方を身に付けます。そのことで、国際社会の中で、主体的に生きる資質を養うことを目標としています。
学習の方法	授業が基本です。集中して取り組みましょう。なぜ、どうしてこうなるのかを考えながら取り組みましょう。基本的な内容を身に付けるために地図帳や統計資料の活用をしましょう。 また、白地図を積極的に活用し、地図で理解していくことに努めましょう。地理図表、地理ワークブックの活用により理解を深めていきましょう。
評価の規準	1 知識・技能 地理に関わる諸事情に関して、世界の空間的な諸事情の規則性、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地理に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 2 思考・判断・表現 系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や考察、構想したことを効果的に説明したり、議論したりする力を身に付けている。 3 主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探求しようとする態度を養い、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚を深めている。
評価の方法	[各学期の評価] 上記の観点を踏まえ、定期考査と課題の提出状況や授業に取り組む姿勢（ノート、問題集、小テスト、発表など）を加味して総合的に判断して評価を行います。 [年間の評価] 上記の観点を踏まえ、各学期の評価を総合的に判断して年間の成績の評価を行います。

	単元	主な学習内容
1 学期	第1部 現代世界の系統地理的考察 第3章 交通・通信と観光、貿易 第4章 人口、村落・都市 第5章 生活文化、民族・宗教 第2部 現代世界の地誌的考察 第1勝 現代世界の地域区分	自然環境と資源の関連性を踏まえ、農林水産業・鉱工業・商業の地域ごとの発展について考察します。 都市と村落の成り立ちについて学習し、現代の課題について考察します。 世界の民族問題や領土問題に関する諸事象を取り上げ、歴史的背景も踏まえながら学習します。
2 学期	第2章 現代世界の諸地域 第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探求 ○大学入試への対策	現代世界をいくつかの区分する方法や地域概念、地域区分の意義について学習します。 現代世界の諸地域を取り上げ、歴史的背景を踏まえて多面的・多角的に地域の変容や構造について、地誌的に学習します。 大学入試問題や模試の問題を利用して、学習内容を確認し、理解を深めます。
3 学期	○大学入試への対策	進路目標の実現を図るため、大学入試センター試験や国公立大の個別学力試験などへの対策を行います。

令和7年度 シラバス

教科	地理歴史	科目	日本史探究	学年・類型	6年・人文 選択	単位数(週時数)	4
教科書	日本史探究 詳説 日本史 (山川出版社)						
副教材等	「図説日本史通覧」(帝国書院)						

学習の目標	私たちの国の歴史がどのように展開してきたのかを、地理的な条件や世界の歴史との関連の中で考えます。そして、私たちの国の伝統と文化の特色についてしっかりと理解するとともに、「どういう原因(背景)」があったために「何が起こり」、そのため「結果としてどうなったか。」を、自分自身で考え、他の人に伝えることができる力を身に付けます。このような力を生かし、国際社会において主体的に生きる資質を養うことを目標としています。
学習の方法	6年生では、近世の初めの「幕藩体制の成立」から「現代の日本」までを学習します。 5年生で学んだことの続きですから、それぞれの時代の特徴(横軸)と、時代による変化(縦軸)をしっかりと把握しましょう。そのためには基本的な用語の意味を理解することが大切です。細かい年代を覚える必要はありません。「それまでどうであったか」「何がおこったのか」「その結果どうなったのか」という因果関係を理解することができれば、勉強が更に面白くなります。
評価の規準	1 関心・意欲・態度 我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究しようとする。 2 思考・判断・表現 我が国の歴史の展開から課題を見つけ、多面的・多角的に考察することで、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、その歴史的過程や成果を適切に表現している。 3 資料活用の技能 我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 4 知識・理解 我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	[各学期の評価] 上記の点を踏まえ、定期考査・課題テスト・小テストの成績の他、課題の提出、主体的な授業への取組などで、総合的に判断して評価を行います。 [年間の学習状況の評価] 上記の点を踏まえ、各学期の成績を総合的に判断した上で評価し、年間の学習成績とします。

	単元	主な学習内容
1学期	第9章 幕藩体制の成立と展開 第10章 幕藩体制の動揺 第11章 近世から現代へ 第12章 近代国家の成立 第13章 近代国家の展開	江戸幕府が安定した封建支配体制を作り上げ、庶民の文化や学問が全国的に発展していったこと、封建体制が動揺し、国内外の危機に対応する中で、明治国家が成立して列強を範に近代化を果たす過程を学びます。学習したことを通して、我が国がどのような国際関係の中で行動していったかを考えます。
2学期	第14章 近代の産業と生活 第15章 恐慌と第二次世界大戦 第16章 占領下の日本 第17章 高度成長の時代 第18章 激動する世界と日本	帝国主義の一員となった我が国が、第二次世界大戦に突入して敗北を喫したこと、独立を回復した後、民主主義と平和主義の基本方針のもと、どのように国際社会に寄与してきたかを学びます。学習したことを通して、国際社会に主体的に生きるうえで、自分たちに必要なものは何かを考えます。
3学期	発展的な学習	2年間、学習したことを振り替えし、理解を深めます。

令和7年度 シラバス

教科	地理歴史	科目	世界史探究	学年・類型	6年・人文 選択	単位数(週時数)	4
教科書	詳説世界史(山川出版社)						
副教材等	「世界史のミュージアム」(東京法令出版)						

学習の目標	近現代史を中心とする世界の歴史の大きな枠組みと流れを理解します。各地域や時代の特色、文化の多様性などを学習することによって歴史的思考力を育て、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を身に付けます。
学習の方法	教科書を精読し、資料集を活用しながら、問題演習を通して近現代史の体系的理解に努めます。略地図・略年表を用いて、現在の国際関係との違いや現在へと続く文化の源を実感しながら、多角的な歴史の見方を学びます。また、単元をまたいだテーマ史にも取り組みます。また、古代から近代までの歴史を中心に、地域ごとに多様な文明圏が形成されていく過程について更に詳しく学んでいきます。 事前に教科書を読み、必ず予習してください。週末などを利用して復習を欠かさずにやってください。
評価の規準	1 知識・技能 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 2 思考・判断・表現 地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、概念などを活用して多角的・多面的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や議論したりする力を身に付けている。 3 主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探求しようとする態度を養い、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚を深めている。
評価の方法	〔各学期の評価〕 上記の点を踏まえ、定期考査・小テストの成績の他、課題の提出、主体的な授業への取組などで、総合的に判断して評価を行います。 〔年間の学習状況の評価〕 上記の点を踏まえ、各学期の成績を総合的に判断した上で評価して、年間の学習成績とします。

	単元	主な学習内容
1 学 期	第9章 大交易・大交流の時代 第10章 アジアの諸帝国の繁栄 第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 第12章 産業革命と環大西洋革命 第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成	18世紀以降の世界商業の進展と産業革命後の資本主義の確立を中心に、世界の一体化の過程を理解します。特に、ヨーロッパの動向と日本などアジア諸国の対応に着目します。
2 学 期	第14章 アジア諸地域の動揺 第15章 帝国主義とアジアの民族運動 第16章 第一次世界大戦と世界の変容 第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 第18章 冷戦と第三世界の台頭 第19章 冷戦の終結と今日の世界	地球規模で一体化した現代世界の特質と展開過程を理解し、人類の課題について考察します。特に、世界の動向と日本との関わりに着目します。 また、近現代以前の世界の特質を理解し、近現代発展の背景になっている点に着目します。
3 学 期	問題演習	学んできた世界の歴史の流れと特徴を確認・整理し、学習内容の定着を図ります。

令和7年度 シラバス

教科	地理歴史	科目	日本史研究	学年・類型	6年・人文 選択	単位数(週時数)	3
教科書	日本史探究 詳説 日本史 (山川出版社)						
副教材等	「図説日本史通覧」(帝国書院)						

学習の目標	私たちの国の歴史がどのように展開してきたのかを、地理的な条件や世界の歴史との関連の中で考えます。そして、私たちの国の伝統と文化の特色についてしっかりと理解するとともに、「どういう原因(背景)」があったために「何が起こり」、そのため「結果としてどうなったか。」を、自分自身で考え、他の人に伝えることができる力を身に付けます。このような力を生かし、国際社会において主体的に生きる資質を養うことを目標としています。
学習の方法	6年生では、近世の初めの「幕藩体制の成立」から「現代の日本」までを学習します。 5年生で学んだことの続きですから、それぞれの時代の特徴(横軸)と、時代による変化(縦軸)をしっかりと把握しましょう。そのためには基本的な用語の意味を理解することが大切です。細かい年代を覚える必要はありません。「それまでどうであったか」「何がおこったのか」「その結果どうなったのか」という因果関係を理解することができれば、勉強が更に面白くなります。
評価の規準	1 関心・意欲・態度 我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究しようとする。 2 思考・判断・表現 我が国の歴史の展開から課題を見つけ、多面的・多角的に考察することで、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、その歴史的過程や成果を適切に表現している。 3 資料活用の技能 我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 4 知識・理解 我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	[各学期の評価] 上記の点を踏まえ、定期考査・課題テスト・小テストの成績の他、課題の提出、主体的な授業への取組などで、総合的に判断して評価を行います。 [年間の学習状況の評価] 上記の点を踏まえ、各学期の成績を総合的に判断した上で評価し、年間の学習成績とします。

	単元	主な学習内容
1学期	第9章 幕藩体制の成立と展開 第10章 幕藩体制の動揺 第11章 近世から現代へ 第12章 近代国家の成立 第13章 近代国家の展開	江戸幕府が安定した封建支配体制を作り上げ、庶民の文化や学問が全国的に発展していったこと、封建体制が動揺し、国内外の危機に対応する中で、明治国家が成立して列強を範に近代化を果たす過程を学びます。学習したことを通して、我が国がどのような国際関係の中で行動していったかを考えます。
2学期	第14章 近代の産業と生活 第15章 恐慌と第二次世界大戦 第16章 占領下の日本 第17章 高度成長の時代 第18章 激動する世界と日本	帝国主義の一員となった我が国が、第二次世界大戦に突入して敗北を喫したこと、独立を回復した後、民主主義と平和主義の基本方針のもと、どのように国際社会に寄与してきたかを学びます。学習したことを通して、国際社会に主体的に生きるうえで、自分たちに必要なものは何かを考えます。
3学期	発展的な学習	2年間、学習したことを振り替えし、理解を深めます。

令和7年度 シラバス

教科	公 民	科目	倫 理	学年・類型	6年・人文 選択	単位数(週時数)	3
教科書	「高等学校 倫理」 (第一学習社)						
副教材等	「アプローチ倫理資料 PLUS」 (東京法令出版)						

学習の目標	青年期は自己を形成するための大切な時期であり、その意義を理解するとともに人間としての生き方・在り方を考察します。そのために世界の主な宗教や先哲とよばれる人たちの思想について学びます。そして、他者と共に生きる自己を確立し、良識ある公民として必要な能力を身に付けることを目標としています。
学習の方法	基本的な用語の理解はもちろんですが、「なぜその課題を解決することが重要なのか」「なぜ先哲はこのような思想を持つに至ったのか」という意味と意義についてしっかりと考え、自分のことばで理解していきます。
評価の規準	1 知識・技能 先哲の基本的な思想を理解するとともに、日本人の文化や思想の知識を身に付けている。 2 思考・判断・表現 人生の中で哲学や宗教・芸術の持つ意義を理解し、青年期の課題を踏まえながら自己の生き方について論理的に考察することができている。また、歴史的背景をふまえた上で諸資料を活用して、人間の存在や価値について考察を深めている。 3 主体的に学習に取り組む態度 現代の倫理的課題の探求を通じて、人間の在り方生き方について意欲的に考察していこうとする。
評価の方法	[各学期の評価] 上記の観点を踏まえ、定期考査、課題、提出物その他主体的な授業への取組等を総合的に判断して評価を行います。 [年間の評価] 上記の観点を踏まえ、各学期の評価を総合的に判断した上で、年間の成績の評価を行います。

	単 元	主な学習内容
1 学期	第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方 第1章 人間の心と自己形成 第2章 人間の存在や価値と宗教 第3章 人間のあり方と社会	青年期の課題を踏まえ、人格、感情、認知、発達についての心理学の考え方をもとに、様々な人間の心のあり方を理解します。 人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義等を理解し、人間の存在や価値に関わる基本的な課題について考えます。 日本人に見られる人間観、宗教観等の特質について、我が国の風土や伝統、外来思想の受容などを理解するとともに、自己との関わりについて考えます。
2 学期	第4章 現代の人間と社会をとらえる思想 第5章 国際社会に生きる日本人としての自覚 第2編 現代の諸課題 大学入試への対策	自己の生きる課題との関わりにおいて、先哲の基本的な考え方をとおして人間の存在や価値についての考えを深めていきます。 日本人の人間観、自然観、宗教観などと、古来の日本人の心情と考え方との関係を理解します。 倫理的課題の探求を通して、倫理的思考力や表現力を身に付けます。 過去の大学入試センター試験の問題等を利用して、学習内容の定着を図ります。
3 学期	大学入試への対策	過去の大学入試センター試験の問題等を利用して、学習内容の定着を図ります。

令和7年度 シラバス

教科	公 民	科目	政治・経済	学年・類型	6年・人文 選択	単位数(週時数)	3
教科書	「高等学校 政治経済」(第一学習社)						
副教材等	「最新図説 政経」(浜島書店)						

学習の目標	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会で主体的に生きる社会の形成者として、民主主義の本質に関する概念や理論についての理解を深めさせるとともに、現実社会の政治・経済・国際関係に関する諸課題について客観的に理解、考察させ、その解決に向けて公正な判断に基づき探求する良識ある公民として必要な能力と態度を育てた上で、社会の一員としてより良い社会をつくっていかうとする主体的かつ積極的な姿勢を養います。
学習の方法	授業で学ぶ内容についてしっかりと取り組み、自ら考えたり判断したりしながら、学習内容を整理してまとめましょう。学習内容の要点を整理する際に、自分の言葉で文章に表現したり、ようやくしたりすることも大切です。 また、普段から国内外のニュースに関心を持ち、社会で起こる様々な出来事について自らの問題として考え、自分なりの意見を構成していく習慣を身に付けましょう。
評価の規準	- 知識・技能 現代社会の政治や経済を理解するために基礎となる理論を身に付けるとともに、様々な社会的事象に関する統計やデータ等から情報を読み取り、読み取った情報を活用して自らの考えをまとめたり、表現したりすることができている。 - 思考・判断・表現 授業や家庭学習で学んだ知識や情報を活用して社会的事象について思考したり、公正に判断したりすることができ、その結果を自らの文章やプレゼンテーションで表現することができている。 - 主体的に学習に取り組む態度 現代社会の政治や経済の動きに対して関心を持ち、授業で学ぶ内容について意欲的に学習に取り組み、自らの生活の在り方に役立てようとする態度を持つことができている。
評価の方法	[各学期の評価] 各学期とも、定期考査、課題、小テスト、授業の取組等を評価規準に基づいて評価します。 [年間の評価] 各学期の評価を総合的に判断して、年間の評価を行います。

	単元	主な学習内容
1 学期	第1編第1章 現代日本の政治・経済 第1節 日本国憲法と現代政治のあり方 第2節 望ましい政治参加の在り方と主権者としての政治参加の在り方 第3節 市場経済の機能と限界	政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解を深め、その特質や問題点について考えます。また、学習に合わせて大学入試問題等を利用して、学習内容の定着を図ります。
2 学期	第4節 持続可能な財政および租税のあり方 第5節 金融を通じた経済活動の活性化 第6節 経済活動と福祉の向上 第2編第1章 現代の国際政治・経済 第1節 国際法の果たす役割 第2節 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割 第3節 相互依存関係が深まる国際経済の特質	経済主体の活動と市場や経済循環、経済成長と景気変動、財政の働きと租税などの意義、金融の働きとしくみについて理解を深め、その特質や問題点について考えます。また、学習に合わせて大学入試問題等を利用して、学習内容の定着を図ります。 国際社会の変遷、国際法の意義、国際政治機構の役割や我が国の安全保障と国際貢献、貿易の現状と意義、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について理解を深めます。また、学習に合わせて大学入試問題等を利用して、学習内容の定着を図ります。
3 学期	第4節 国際経済において求められる日本の役割 第2章 国際社会の諸課題の探求	国際経済において果たすことが求められる日本の役割や現代社会の諸課題について多面的・多角的に考察し、望ましい解決のあり方を考える。また、学習に合わせて大学入試問題等を利用して、学習内容の定着を図ります。

